

音戸 (榛葉竹庭)

岡巒 中斷して 青波を 湛え

橋下 舷を 連ねて 大船 過ぐ

知る 是 平公 開鑿の 迹

岸頭 潮 満ちて 夕陽 多し

岡巒中斷湛青波 橋下連舷大船過
知是平公開鑿迹 岸頭潮漏夕陽多

解説 平清盛は平治元年、源義朝を破り、名実ともに武門の棟梁としての地位を確立した。そもそも、平氏の経済的基盤は、莊園、知行国及び日宋貿易であり、特に清盛は中国貿易に力を注ぎ、神戸港を築くと共に、音戸の瀬戸を開難して船舶の通行を容易にした。この貿易によって蓄えた財力をもって院の歛心を買ひ、近臣としての地位を強化していったのである。現在も音戸大橋のたもとの倉橋島側には、彼の見識を称える小さな塚がある。

語釈 ※開巒||小山。※平公||平清盛。

通釈 小山が中斷された箇所には青い波が漫々と連なり、音戸大橋の下を大船が舷を連ねて過ぎて行く。ここは嘗て平清盛が切り開いた処であり、今、岸には潮が満ちて清盛塚を洗い、夕景は一段と風情を添えている。